

祈りの友 第200号

2024年6月

「ほめたたえます！主よ！」



高水林 (コウ スリム)

「あなたが食べて満ち足りたとき、主がお与えくださった良い地について、あなたの神、主をほめたたえなければならぬ。」

申命記 8 章 10 節 (新改訳 2017)

ハレルヤ！主をほめたたえます。

新しく導かれた東北支部で初めてのデボーションキャンプを終えて、みんなが帰ってから、聖書を読むと申命記 8 章 10 節が心に留まりました。そうでした。私は主をほめたたえなければならなかったのです。新しい所で常に主をほめたたえなかったことを悔い改めました。

去る 3 月 29 日に日本 CEF は家主さんに最終支払いをしてこの家に入ることができました。福島県いわき市小名浜野田字八合 32-2 です。4 月 1 日には本部から荷物が運ばれました。それから冷えとの戦いでした。すべての部屋は広くて天井が高くて冷え、寒さを凌ぐために精一杯でした。とにかく体を温めるのに必死でした。私は主をほめたたえることを忘れていました。248 坪の土地に 54 坪の家で、部屋は 1 階に 4 部屋、2 階に 2 部屋あります。第三金曜日からはデボーションキャンプだから、子どもたちが寒くならないように祈る日々でした。布団がある分だけ泊まらせて、子ども 3 名が泊まり、他の人たちは部分参加でした。今までは小名浜の新よね旅館と、湯本の郁子姉のお宅を会場にしていたから、私が子どもたちを迎える側になったのは初めてで、いつもしている、夜のデボーションの分かち合いをパスしたことがショックでした。でも子どもたちもお母さんたち

も助けに来たスタッフたちも新しい所での初キャンプに大喜びでした。

4 月第三土曜日の朝、皆さんが帰った後、一人で聖書を読んだら、主をほめたたえなければならないと書いてあるところで、いろんな思いがしました。この家に初めて入った時の平安、この家だと思ってずっと主を待ち望んでいた時間、すべてがスムーズに進み、多くの方々のご協力とご支援とお祈りに支えられ、土地と母屋と納屋まで宗教法人の境内地登録になり、やっと住むために入ることができました。

住んでみて、平安だというのははじめの時に変わりません。でも、今まで目の前のことに精一杯でした。畑の草むしり、家の一回りの草むしり、網戸 28 枚の張り替え、崩れている塀を建て直し、多くの木の剪定、障子張りなどに気を奪われました。私はもっともっと主をほめたたえなければならなかったです。

天使たちを送ってくださいと祈りました。天使たちが現れました。伝道仲間のイネ姉が常に来て様子を見ます。ある日は隣人を連れて来ました。何回かお会いした方で、求道者の佐伯氏です。彼は 4 回にわたって 28 枚の網戸張り作業を終えると納屋の裏の塀の崩れを直しました。今は庭の剪定です。私は付き添いながら助手役でした。彼が救われるまでもっともっと仕事を作らなければなりません。

素晴らしいことは、デボーションキャンプに来ている子どもたちの近くに東北支部が与えられたということです。同じ小中学校のエリアです。また 800 メートル離れた所の玉川町中央公園で毎週月曜日にイネ姉は GNC 伝道が続いているということです。イネ姉のお宅には子どもたちがいつも来ています。その子どもたちはデボーションキャンプに来たがって

います。私が周りの中学生に伝道していると、みんながイネ姉のことを「知っているよ」と言います。続けて種が蒔かれた所で芽が出て、まるで叫んでいるようです。イネ姉の教会の先生は、「玉川団地近くに教会がないから、子ども会に来ている子どもたちが東北支部につながり、子ども会やデボーションキャンプを通して教会のような働きになったらいいですね」と言われました。

デボーションキャンプの会場だった新よね旅館の恵美子姉は毎週金曜日に教会の近くの玉露団地公園で伝道しています。また郁子姉も湯本の公園と駅周辺の伝道によく加わります。

主を覚えて、主をほめたたえなければならぬことはたくさんあります。この所に導かれた主は、この所で主をほめたたえることを望んでおられます。

実は、裏庭に家の守り神という物が立っていました。最後、もしかしてと思い確認したら解体されていなかったのです。不動産の方に電話したら、業者さんたちはそれを解体するのを嫌がるということでした。「では、私たちが最初倒しますから、その後はよろしく願いいたします」といったら、「相談してみます」と言われました。後で行ってみると、業者さんの方できれいに撤去してありました。

その後、先祖と関わる偶像が出てきたので私が、ハンマーで砕きました。私たちは主がくださったこの所をきよめたいです。私たちはこの土地に立って隅々まで神さまが喜ばれることをしたいです。近くに与えられているクリスチャン仲間とともにこの町の祝福を祈っていきます。

また、近くの子どもたちが集まる所、近くの子どもたちが神さまに近づく所として用いられるように整えたいです。常に主を覚えて、主をほめたたえることを忘れないで生きていきたいです。ひいては1教会にせめて1児

童伝道者が起こされるまで、常に主をほめたたえながら進んでいきたいです。栄光在主!

(韓国C E F 宣教師)



デボーションキャンプ



東北支部

日本C E F (日本児童福音伝道協会)

〒311-3434 茨城県小美玉市栗又四ヶ 2421-6

TEL 0299(28)2031 Email : japancef@cef.or.jp

HP : <https://www.cefjapan.com>

FAX 0299(28)2028

献金振替 00160-1-59313 (宗) 日本児童福音伝道協会